

# City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

## 食品ロスを減らそう 家庭でできる食支援 “フードドライブ”

家庭で余っている食品を開催告知された日に持ち寄って地域の福祉団体などに提供し、食を必要とする人々に届ける活動をフードドライブという。社会貢献と同時に食品の無駄な廃棄を抑制する効果があるとして全国的に広がりつつあり、北摂も取り組み始めている。

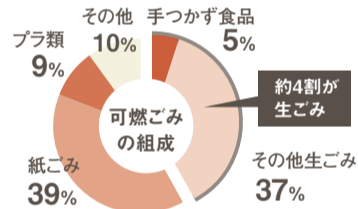
### 全国的に深刻な ごみと食品ロス問題

ごみの焼却処理にかかる最終処分場は全国的にひっ迫しており、ごみの減量が喫緊の課題となっている。農林水産省の調査によると、年間の食品廃棄物の総量は約2,775万トン。このうち、まだ食べられるにも関わらず捨てられている食品、いわゆる「食品ロス」は621万トンにもものぼる(平成26年度)。これは、飢餓で苦しむ人々に対する世界の食料援助量の約2倍に相当するという。豊中市の平成24年度の調査においても、可燃ごみのうち5%が手つかずの食品だったという結果が出ている。食品ロス削減に向けて、さまざまな対策が行われており、その一つがフードドライブだ。主に関東を中心に活発化しているが、豊中市や茨木市なども取り組みを始めた。

### 豊中市と茨木市の例

**豊** 中市では一昨年、北摂では初めてのフードドライブを試行的に実施。30人から総重量約62kgの食品が提供された。集まった食品は豊中市の社会福祉協議会(以下社協)を通じて各校区の福祉委員会等に提供され、生活困窮者や地域の福祉活動に分配された。今年度は子ども未来部など他部局とも連携し、部の枠を超えたさまざまなイベントで計5回のフードドライブを実施。桜塚小学校校

#### 【家庭系ごみの分析結果】



(右上)昨年11月に茨木市で行われたフードドライブの受け付けブース。  
(左上)昨年10月に豊中市役所で行われたフードドライブで集まった食品約121kg分。



社協では、集まった食品の一部を子ども食堂に利用した。

### ネットワーク広げ、 食品ロス削減へ

**フ**ードドライブの環境面からみた目的は、食品をたくさん集めることではなく、食品ロスの削減にある。「回を重ねるにつれて、集まる量が減っていくのが理想」と豊中市。茨木市では、「フードドライブをきっかけに、冷蔵庫の整理をしてみしてほしい」と呼びかけている。また豊中市では、「各地域や事業者単位で実施してもらい、そこから社協とつながれば、消費・賞味期限が近い食品でもフードドライブが可能になります。農家等の規格外品などにも動きが広がれば生鮮食品も扱えて、より良い取り組みになります。3~5年をかけてネットワークを作りたい」と話す。今後は、定期的に実施するためにも、事業者と社協を直接つなげる調整役として力を注ぎたいとしている。

#### 豊中市の今年度の実施予定

2月18日(日)キッズランド庄内、3月8日(木)豊中市役所内での実施が決まっている。詳細は、市のホームページで確認を。

## 来年度実施は見送るか キッズウィーク導入

### 大人と子どもが 一緒に過ごす休日を増やす

**政** 府は、来年度(平成30年4月)から新たな休暇制度「キッズウィーク」の導入を調整している。キッズウィークとは、大人と子どもと一緒にまとまった休日を過ごす機会を創出するための取り組み。都道府県や市町村など、地域ごとに学校の休業日を別の時期に分散し、子どもが休みの日は大人も有給休暇を取得して、休日の多様な活動機会を確保することを目的とした制度のことだ。全国一律・一斉ではなく、地域の実情に応じて教育現場や企業の取り組みなどを踏まえ、地域ごとに多様な方法で自主的に取り組むことを想定している。

会議が行われ、意見交換や総合調整を行う。一方地域では、教育・経済・観光文化・交通などの関係機関からなる「地域における休み方協議会(仮称)」を設置。休業日分散化の実現に向けて話し合いを進めるとともに、各地域で観光資源の魅力向上に向けた取り組みを確認し、好事例等を発表していくという。また国民に対しては、キャッチフレーズやロゴマークを作成して商品開発などを行い、キッズウィーク実現に向け国民的な機運を高めていきたいとしている。

### 吹田・豊中・箕面・池田 導入には課題が多い

**現** 段階では、各市ともに導入に向けた取り組みは行なっておらず、中でも吹田市では「今は

### 学校休業日の分散化イメージ

※休業日の時期や期間は、地域の実情に応じて設定

#### [例1] 夏季休業日を短縮し、県民の日と合わせて4連休を創設

6月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30		27	28	29	30	31		

#### [例2] 夏季休業日を短縮し、土日等と合わせて、例えば秋に新たな長期休業日を創設

7月							8月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	8	9	10	11	12	13	14
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	15	16	17	18	19	20	21
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	22	23	24	25	26	27	28
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			29	30	31				
30	31																			

出典:キッズウィーク総合推進会議(第1回)資料

導入を考えていない」としている。その理由として、「各学校では教育の充実のためにすでに夏休みを短縮して授業時間を確保しており、これ以上の短縮は難しい」という見解である。また、「親が他市に勤務している家庭が多いので、実施に向けてはまだまだ検討が必要」(箕面市)、「休みの取りにくい職種の保護者は、子ど

もの休みに合わせることは難しい」(池田市)、「来年度から急に実施すれば学校や保護者に混乱が生じてしまう」(吹田市)など、導入には様々な課題を感じているようだ。

今後当面の間は、他市町村や関係機関の動向を注視しながら対応を決めたいとしている。